

「グアルーリョス高齢者ホーム施設改修及び生活向上用機材整備計画」供与式

2010年12月21日、グアルーリョス市ボン
スセツソ地区において、ノツソ・ラル社会福
祉支援・促進センターに対する我が国の草の
根・人間の安全保障無償資金協力の供与式
が行われ、マリア・エレナ・フェルナンデス・
サエス会長、当館大部一秋総領事夫妻、関係
者等約20名が出席しました。

式典において、サエス会長は、「高齢者を尊
敬する日本を世界は見習わなくてはならな
い。我々は日本から学ぶことがたくさんある。
グアルーリョス市内では厳しい衛生基準に沿
うことができないために数件施設が閉鎖を余
儀なくされた。この度の日本政府のおかげで
我々は衛生基準を守ることができた。我々ブ
ラジルに投資をしてくれたことに感謝すると
ともに、これからもブラジルが進歩していけるよ
う協力をお願いしたい。また、高齢者ホームの
ことを心の片隅においていただき、可能であ
ればまた立ち寄っていただきたい。私たちの
感謝の気持ちは永遠である」と挨拶しました。

大部総領事は「日本政府がこのような形で
皆さんのお手伝いができることを大変光榮
に思う。どの社会でも色々な問題を抱えて
いる。ブラジルにおいて様々な場所を訪問し
たが、大きな心、大きな愛、もてなし、努力を
持って活動しており尊敬する。皆さんの活動
が困っている人々を助け、良い社会を構築
していく基礎となる。100年前、日本移民を
大きなもてなしで受け入れてくれたブラジル
国人に大きな感謝の気持ちを持っており、こ
のような形で感謝を示すことができ、大変嬉
しく思う。今後、ブラジルと日本の友好の絆
がより一層強くなることを記念する。」と祝辞
を述べました。



記念プレートの除幕式



大部総領事の挨拶



供与品目に ODA シールの貼り付け

○ 上記案件のプロフィール

案件名: 「グアルーリオス高齢者ホーム施設改修及び生活向上用機材整備計画」

被供与団体: 「ノツソ・ラル社会福祉支援・促進センター」

プロジェクト実施地: サンパウロ州グアルーリオス市

契約署名式日: 2010年2月25日

供与額: 約171, 000. 00リアル

案件の概要: ノツソ・ラル社会福祉支援・促進センターは、1991年に設立され、貧困層の住民・コミュニティーに対して生活の基礎となる食事・教育及び社会福祉サービスを行っており、現在はサンパウロ市内外の26施設でサービスを提供しています。グアルーリオス市のボンスセツソ地区に所在する高齢者ホームは、1992年に貧しい高齢者に対して法的相談、医療、薬剤提供、毛布提供、食料提供等のデイケア・サービスとして開始されたが、貧困地帯特有の、家族の介護放棄や身寄りのいない高齢者で成り立っていたため、市から提供された土地に協力者の力を借りて、5年の年月を要して当該地区に不足していた高齢者ホームを建設しましたが、衛生基準に沿っていない洗濯場や、中古の寄付品である医療ベッドの老朽化が進み、改修工事や更新が必要とされていました。

供与品目: 洗濯場の改修、業務用洗濯機、業務用乾燥機、医療用電動ベッド等



業務用洗濯機



医療用電動ベッド